

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	令和元年度 第1回近江八幡市総合教育会議		
開催日時	令和元年6月13日（木） 10時00分 ～ 11時30分		
開催場所	近江八幡市役所3階 市長応接室		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	<p>出席者（敬称略）</p> <p>市 長 小西理（◎）</p> <p>教育長 日岡昇</p> <p>教育長職務代理者 高木敏弘</p> <p>教育委員会委員 八耳哲也、安倍映子</p> <p>（欠席者）教育委員会委員 久家昌代</p> <p>◇傍聴者 0名</p>		
次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	<p>所属名、担当者名 総合政策部企画課 万野</p> <p>電話番号 0748-36-5527</p> <p>メールアドレス 010202@city.omihachiman.lg.jp</p>		
会議記録	発言記録・ 要約	要約 した 理由	内容を整理して、わかりやすく記録として残すため
内容	別紙のとおり		

担当課⇒総務課

事務局

1. 開会

市長

2. あいさつ

- 人材育成がまちの重要課題だと強く感じている。
- 総合教育会議は方針を決めていく大事な会議なので忌憚のない意見をいただきたい。本市の進んでいく方向をしっかりと定めていきたい。

教育委員会
事務局

3. 議題

(1) 「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」への取組について

- 資料Aに基づき、運動の拡大、充実について説明

①令和元年度の全体計画（案）

学校教育課、学校給食センター、学校図書館など連携機関での取組内容について説明。認知度は上がってきており、学校全体での取組、全市的な取組、地域での取組にも広めていきたい。

②平成30年度生活習慣に関するアンケート調査の集計結果

平成24・27・30年で変化や成果が確認できる。できている力は伸ばす、高まりにくい力や意欲は向上させる取組を進めていきたい。

委員

- 平成18年から発信はコツコツしてきたが、一方的な啓発だった。
- 教育委員会の関係機関だけでなく、全庁を挙げて運動してほしい。職員の方もしっかり意識していただき、窓口で大切さを伝えていただきたい。
- 将来本市で活躍する子どもたちを育てるといふ、間違いのないスローガンなので私立校園も含めた市内全体で取り組んでいただきたい。
- 子どもたちが健やかに育つのに欠けている家庭、支援が必要な家庭には、学校だけでなく、行政として関わっていただきたく、その具体的な検討が必要である。

委員

- 生きやすくなっているが、子どもが育ちにくい社会になっている。
- 学校だけでは育ちきれない。地域力を生かしていく啓発が弱いと感じる。
- 学校では読書時間を生み出すのに必死だが、子ども自身も忙しくなっている。読書率で成果を測るのが良いか判断が難しいが、時間確保には工夫が必要である。

委員

- 学校だけの問題ではない。社会教育、市民運動として取り上げるべき。
- 心に響くキャッチフレーズを考え、啓発キャンペーンをしてはどうか。町内会でも、さまざまな会議でも継続して言い続けると定着していくの

教育長	<p>ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 親子と一緒に活動する機会に、PRキャンペーンをやってはどうか。 ● 市PTA連合会、自治会の総会、広報7月号でもアピールを行った。 ● ほとんどの家庭ができている。できていない家庭に対して、学校、地域、教育委員会がどう伝えていくのかを考え、地域全体で取り組むことが必要である。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和の時代に活躍する子どもたちであることを心に留めておきたい。 ● みなさんの意見は一致しているが、啓発の手法が難しい。まずは、みんなが口にする、言葉にすることが良いのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の皆さんに、子育て家庭の見守りをお願いしてはどうか。 ● 視覚に訴える啓発が大事である。 ● 時間がなく、スマホで情報を得られる時代なので、読書の魅力をどう伝えるのが重要。時間数・冊数の減少だけでは語れない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 無理やり読書させられると嫌になる。興味のあるものは読めるので、冊数より、子どもに深く興味を持たせることが大事である。 ● 量より質。子どもたちに刺激を与える学習が良いのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 本、絵本との出会いで、豊かな心が育つ。 ● 先生が大事にしているもの、人との出会いについて、子どもと一緒にどう見つめてきたのか、そこに教育がある。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ● 本を読むと心が豊かになる。本の主人公になれる、物語の中に入り込めるという面白さに気づいてほしい。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ● 面白いと気づける機会が必要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 文章に親しむことは絶対に大事である。
教育委員会事務局	<p>(2) 子どもの安全確保について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 資料Bに基づき、学校安全の活動①～⑤について説明 <ul style="list-style-type: none"> ①学校における危機管理マニュアルの作成・見直し ②スクールガード活動の取りまとめ ③学校安全総合支援事業の推進 ④こども110番の家との連携 ⑤通学路対策 <ul style="list-style-type: none"> 通常は年1回(交通安全の視点)だが、平成30年度は3回実施(緊急的に防災、防犯の視点でも実施)
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 一番重要なテーマだが、市民の安全を守るという視点での対策が必要であり、教育委員会だけでは解決できない。 ● 点検した結果のフィードバックは必要である。また、実施した安全対策の成果が見えてくれば、市民の意識も高まる。

- | | |
|-----|--|
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 市民から危険箇所の情報が寄せられる。地域ぐるみで子どもの命を守っていくという意識がもっと広がっていくとうれしい。 ● 地域に守られすぎることによって、子どもが受身になっている。道路の危険を主体的に捉えられる危険予知能力を育てていくことも大事である。 ● 昨年の地震の際に避難している現場を見て、マニュアルを作り、共通認識の下に、子どもと一緒に何度も訓練することが大事と感じた。 ● 学校だけに任せるのではなく、行政とともに専門家が入って安全を点検することによって、安全な環境が確立していく。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 安全確保も大事だが、安心を心で感じられることが大事である。 ● マニュアルはとても大事だが、完璧ではない。想定外が起こるので、大人が想定を超えて訓練することが大事と感じる。 ● 事件・事故が起こるまでの状況も分かるため、防犯カメラの設置も求められていく。 |
| 教育長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 人口比率からすると、スクールガードの方はとても多く、がんばっていただいている。 ● 今後は、学校、地域、保護者だけでなく、市民全体で子どもを守っていくことが必要である。 |
| 市長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 今の社会は「子どもをみんなで守ろう」としている。やるべきことはやっていないといけない。 |
| 教育長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 横断歩道の取締りは徹底的にやっていただきたい。 |
| 市長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 活発な議論をありがとうございました。今年度も引き続きどうぞよろしく願いいたします。 ● 委員の皆さまからもテーマがありましたら、お寄せいただきたい。 |

終了 11時30分